



令和2年1月号  
うみのこセンター  
TEL(054)335-1148  
FAX(054)335-1292



		1(水)	2(木)	3(金)
6(月)	7(火)	8(水)	9(木)	10(金)
りす 9:45 ( 感 覚 )	きりん・しか 9:45 ( 親 子 遊 び )	もちつき大会 10:00	うさぎ 9:45 ( 感 覚 )	療育相談 9:30 A 9:45 (正月遊び)
特別指導	E 14:00 ( 親 子 遊 び )	F 14:00	B 13:30 ( 親 子 遊 び )	G・C 13:30 ( 親 子 遊 び )
13(月)	14(火)	15(水)交流保育	16(木)	17(金)
成人の日	きりん 9:45 ( 感 覚 )	ラッコ 10:40 (親子遊び) <b>ランチ</b>	パンダ 10:00 (親子遊び) <b>ランチ</b>	A 9:45 ( 親 子 遊 び )
	K 14:00	G 14:00 ( 正 月 遊 び )	B 13:30 ( 正 月 遊 び )	C 13:30 ( 正 月 遊 び )
20(月)	21(火)	22(水)交流保育	23(木)	24(金)
うさぎ 9:45 ( 生 活 )	しか 9:45 ( 生 活 )	面接相談日	シンデレラクラブ 10:00	あひる 10:00 (親子遊び) <b>ランチ</b>
D 14:00	E 14:00 ( 感 覚 )	F 14:00	B 13:30 ( 感 覚 )	C 13:30 ( 感 覚 )
27(月)	28(火)	29(水)交流保育	30(木)	31(金)
りす・うさぎ 9:45 ( 親 子 遊 び )	しか 9:45 ( 感 覚 )	ラッコ 10:40 ( 紙 遊 び )	パンダ 10:00 ( 紙 遊 び )	療育相談 9:30 あひる 10:00 ( 紙 遊 び )
D 14:00	K 14:00	G 14:00 ( 感 覚 )	個別指導日	A 13:30 ( 感 覚 )

<交流保育について>

1月15日(水)から交流保育が再開します。  
お休みの場合はこれまで通り、園とうみのこセンターの両方へ連絡をお願いします。

<来年度のグループについて>

学年が上がるにあたり、4月からの所属グループが変わります。担当職員からご都合をお聞きしていきますので、よろしくをお願いします。

<餅つき大会について> 1月8日(水) 10:00~

事業団全体の行事です。もちつき体験やアトラクションで楽しんでください。  
たくさんのご参加お待ちしております。当日は十分に暖かい服装でお越し下さい。





## 【1月のグループ活動のねらい】



### 〈感覚：何の音？〉

私達の周りには様々な音があります。音を聞くと、色々な物や状況をイメージする事もできます。意識して聞いて、何の音かなと考えてみましょう。

### 〈生活：買い物(年少)〉

お店でお菓子やジュースを買い、その場で食べてフードコート気分を味わいます。食べた後のお片付けにも挑戦してみましょう。

### 〈生活：正月遊び(年中)〉

昔からのお正月ならではの遊びを楽しみます。懐かしい遊びに心も和むと思います。お母さん方も一緒に楽しんでください。

### 〈紙遊び(ラッコ・パンダ・あひる)〉

今回は新聞紙を使って、色々な遊びをしてみたいと思います。破いたり丸めたり、また、その音を聞いたりと五感を使って楽しみましょう。



## ～父親教室を行いました～

11月11日(日)に父親教室を行いました。「子どもとお母さんのトリセツ!?!」という演題で、臨床発達心理の稲吉 静先生に講演して頂きました。

まず最初に、ベキログアンケート(日常生活や子育てについての～すべき度(自己評価))をお父さんにも実施してもらい、お母さん達の結果と見比べながら、そこに脳科学的な視点も合わせて男女の違いをみていきました。～するべきという基準はこれまでに育った環境にも大きく左右されます。方針を一緒にすることが大事な時もありますが、違って当然と割り切り、役割分担をして関わることは、子どもに多様な価値観を与えることにつながるのとことでした。

脳科学的には男性脳は「知覚・感性」と「思考・論理」を切り離して考え、まず解決や行動に向かい「共感」は次になります。女性は、両者を同時に扱うため、感情と論理が頭の中でごちゃごちゃしやすいとのこと。なので、子育てに関して上手に役割分担したり、任せきることも苦手。さらに、お父さんが頑張ってくれていても、女性脳が無条件に求めてしまうのが「寄り添い」と「共感」です。これが女性にとっては最大のフォローといっても過言ではありません。でも、一番大切なのは、違いを認めてお互いの状況を伝えあうこと。気持ちはずれてきたらその都度話し合うことです。

次に、「自分」と「自分の子ども」の違いをみていきました。乳幼児期は子どもの思い=親が想像する子どもの思い(きつとお腹が空いているんだ)=親の思いです。しかし、子どもの思い(自我)が芽生えてからは、親と子の思いは独立し「ちがいが」が大前提になります。子ども独自の思いを推理し、子どもを知っていくことが大事で、そこに客観的な視点も取り入れるとよい。そして、子どもを知っていくと子どもの発達特徴が見えてきます。どの子(人)にも発達特徴はあります。でも、ことばが遅い、落ち着きがないなどの悩ましい発達特徴があるととても不安になります。それは、発達特徴の表れが「社会がよしとする範囲に入っているのか」という思いからおこります。どこへ行ってもその社会なりの「求められる範囲」があるのは事実。その中でうまくやって欲しいと思うのが親心です。でも、親や社会の「こうあるべき」の中にずっと入れて守ろうとすると、子どもの思いや発達特徴を閉じ込めてしまうこともあります。包み込むのではなく、社会、親、子どもそれぞれの「特徴・思い」を知って折り合いをつけていくことが大切。

折り合いをつけていく手順は①子どもの発達特徴や思いを考える。②その特徴の振れ幅を考える。③子どもが今いる社会の求める振れ幅の範囲を考える。④その振れ幅具合は周囲に知ってもらったり、呼び名(診断)を付けた方が得か?を考える。⑤特徴を思う時の自分(親)の気持ちを考える。⑥①～⑤を誰かに相談する。

最後に、「自立」≠ひとりで行きっていくこと。「自立」=周囲の理解と助けを得ながら、つながりながら生きていくことです。その土台をつくるために、人との関わりに安心感を持てること、親が「助けてもらう」「助け合う」姿を見せること、「サービス慣れ」しておくことが大切とのことでした。

\*うみのこセンターのおたよりは、ホームページから閲覧することができます。予定の確認などにぜひご活用ください。

〈閲覧手順〉 ①静岡市しみず社会福祉事業団 トップページ

<http://www.shimizu-294.jp> イベント報告→うみのこセンター

② トップページ 「新着情報」

